

第1章 北九州市の生物多様性

工業を主体として産業都市として成長し、九州を代表する大都市として発展を遂げてきた北九州は、先人が守り育ててくれた、都市に近接する豊かで面白い生き物や自然、いわば**アーバンネイチャー**にあふれる街です。

北九州市生物多様性の特徴

Feature01
3つの海

豊前・門司海峡・周防灘

Feature02
3つの国立・国定公園

瀬戸内海国立公園・北九州国定公園・玄海国定公園

Feature03
市域面積の約4割が森林

Feature04
渡り鳥の十字路

日本列島を縦断 × 日本一大陸間を横断

Feature05
希少な生物の宝庫

平尾台・曾根干潟・響灘・ヒトコブ



A 若松北海岸

若松区北部につらなる海岸で玄海国定公園に属する景勝地。遠見ヶ鼻や千畳敷といった荒波で浸食された独特の地形が見られる。



B

響灘緑地グリーンパーク

若松区の頼田貯水池を中心に山林や草原等の様々な自然環境がひろがる市内最大の公園。花や緑、イベントやキャンプ等、レクリエーションが楽しめる。



D

皿倉山

北九州市を代表する標高622mの山。北九州国定公園の一部。野鳥や昆虫等、市街地のすぐ近くで、たくさんの動植物等が生息している。



C

北九州市響灘ビオトープ

廃棄物処分場の埋立地に雨水がたまり、湿地や草地等多様な環境ができ、そこに希少種を含む多くの生物が生息するようになった奇跡の場所。環境省の重要湿地に指定されている。



E

合馬の竹林

小倉南区の合馬は、土壌改良や、一年中手間をかけた竹林管理がなされており、良質で美味しいたけのこが獲れる産地である。



F

はとる

北九州市では、ホタルの保護や水辺の保全といった地域活動が盛ん。まちなかの河川でもたくさんのホタルの飛翔が見られる。市内にはホタルをはじめとした水辺の生き物などを展示する2か所のはとる館が設置されている。



J

曾根干潟

環境省の重要湿地であり、面積517haの広大な砂泥干潟。日本最大級のカブトガニの産卵地で渡り鳥の飛来地としても有名。昔から好漁場で現在もカキ養殖等が盛ん。



G

平尾台

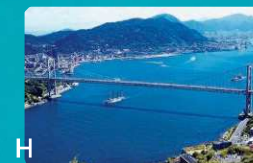
3億4千万年の赤道近くの海の海洋生物(サンゴ、フスリナ)の死骸が石灰岩になったものであり、羊群原が特徴。日本三大カルストの一つ。北九州国定公園、一部、国の天然記念物に指定。



I

水環境館

小倉北区の中心市街地を流れる紫川にあり、川・自然・環境について、楽しく学べる施設。川の中を横から見られる巨大な観察窓が特徴。



H

関門海峡

九州と本州を隔てる約28kmの海峡。海上交通の要所であり、壇ノ浦の合戦等歴史の舞台にもなった。瀬戸内海国立公園に属する。



K

山田緑地

小倉北区西部に位置する約140haの広域公園。戦時中は軍事施設であったため開発を免れ、広葉樹の自然植生が残る貴重な場所。



ヒヨドリ

ハチクマ／ヒヨドリ

北九州市は、国内を縦断する渡り鳥のルートと、中国や朝鮮半島などの大陸間を横断する渡り鳥のルートが交差する「渡り鳥の十字路」に位置しており、渡り鳥の時期には多くの渡り鳥を観察することができる。



ハチクマ

Urban Nature Kitakyushu

寿司をはじめとした世界に誇る北九州市の食も、豊かな自然の恵みです。地元食材の「地産地消」を推進することは、多くの生きものが棲む海、川、山、農地などの生物多様性の保全に貢献することに加え、農林水産業の振興や地球温暖化対策にもつながるなど、たくさんのメリットがあります。



北九州市では、2024年8月に設立された「すしの都 北九州協議会」と連携し、北九州のすし文化を広く発信していくとともに、国内外からの交流人口の拡大につなげ、「すしの都」の実現と、都市の魅力向上を目指しています。また、総務省の統計によると、「刺身盛合わせ」の消費金額（2人以上世帯における都道府県庁所在地及び政令指定都市のランキング）で北九州市が1位となるなど、広く市民に魚食文化が根付いています。

美味しい鮨をにぎるためには大事なことが3つあります。

1 「魚のクオリティ」

魚が美味しく育つには、暖流と寒流の交わる場所「潮目」が必須です。大規模な潮目は世界で3つの地域にしか存在せず、その内の1つである日本近海には、北九州界隈と三陸沖の2か所に点在しています。



すしの都
北九州協議会 会員 船橋氏

2 「鮮度」

鮮度が良いうちにすしネタに調理することが非常に重要です。市場には「産地市場」と「消費地市場」の2種類があり、両者には「鮮度タイムラグ」があります。北九州市は全国でも稀に見る「都市型産地市場」であり、水揚げされたての魚を鮮度抜群の状態ですぐに手が出来る事が出来ます。

3 「豊富な魚種」

海洋生物の大多数は浅い海「大陸棚」に生息しています。北九州市は響灘、周防灘、関門海峡と3つの海に囲まれています。いずれも大陸棚となり、豊富な魚種と漁獲量に恵まれています。大陸棚と潮目、魚の鮮度、この3つの条件が揃っている都市は世界でも北九州以外にはなく、まさに「すしのローカルガストロノミー^(※)」に最も相応しい街と言えます。

※ローカルガストロノミーの土地の気候風土・伝統文化を料理に表現すること

Nature's Gifts

北九州市の食を支える豊かな自然の恵み



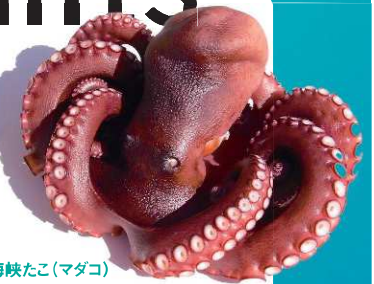
豊前海一粒かき(マガキ)

豊前海の豊富な栄養で育まれたカキ。この中から厳格な衛生基準をクリアしたもの。冬が旬。



豊前本ガニ(ガザミ)

豊前海で漁獲されるガザミの中でも特に身入りの良いもの。秋頃が特に美味。



関門海峡たこ(マダコ)

関門海峡の激しい潮流のため足が太く短く、吸盤が足先まであるのが特徴。歯ごたえがよく旨い。



合馬たけのこ

小倉南区「合馬」で収穫される。筒料理の本場・京都、大阪の一流料亭で指名されるほどの名品。



若松潮風®キャベツ

若松区を代表する農産物。ミネラルを含む玄界灘の潮風をあびて育った甘くおいしいキャベツ。



若松潮風®プレミアム

甘さとみずみずしさ、シャリ感を保つために土づくりにこだわった、糖度の高い大玉すいか。



若松水切りトマト

与える水を制限する栽培方法により、甘みが濃縮され、果物並みの糖度と旨みの特徴のトマト。



大葉しゅんぎく

北九州市では古くから親しまれている野菜。葉先が丸くギザギザの切れ込みがない品種。



小倉牛

北九州市内で丹念に育てられた絶品の黒毛和牛。料理人から絶大な信頼を得る一級品。



一本槍(ケンサキイカ)

福岡で夏のイカといえば本種。身が柔らかくて味が良い。漁期:5月~8月



藍の鰯(サワラ)

全長1mを超える大型魚。冬~春は「寒サワラ」と呼ばれ、特に味が良い。



アカモク

藻場を形成するホンダワラ類の一種。強い粘りと歯ごたえのある食感が特徴。



身近なところにある様々な自然に、個性豊かな多様な生きものが生息しています。
ここでは、そんな魅力的な「市民」の仲間の一部をご紹介します。



ミサゴ

(環境省:準絶滅危惧)
・主食が魚の白いタカ。上空から豪快に水面へダイブし魚をとらえる
・白鳥等で繁殖



トビハゼ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:絶滅危惧II類)
・干潟を飛び跳ねるハゼ
・市内では曾根干潟等、瀬戸内海側の河口や干潟に多い



シオマネキ

(環境省:準絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・雄が片方の巨大なハサミを振って雌を誘う行動が「潮まねき」の由来
・内湾、河口域の泥干潟に生息



クロツラヘラサギ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:準絶滅危惧)
・ヘラ状の長いクチバシが特徴。「サギ」ではなく「キ」の仲間
・主に冬鳥だが、曾根干潟周辺では渡らない個体が周年みられる



ヘナタリ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧II類)
・内湾の砂泥底に生息する3cmほどの細長い巻貝
・曾根干潟では、今でも多数生息



ハクセンシオマネキ

(環境省:準絶滅危惧II類、福岡県:準絶滅危惧II類)
・雄のハサミは片方が巨大で白い
・曾根干潟では大野川河口の砂州や海浜路周辺で見られる



ツクシガモ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:準絶滅危惧)
・冬に筑紫地方でよくみられる大型のカモ
・曾根干潟は本種の代表的な越冬地



イチヨウシラトリ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・内湾奥の泥干潟に生息する真っ白な二枚貝
・県内では曾根干潟、今津干潟で確認



ミドリシャミセンガイ

(福岡県:準絶滅危惧)
・緑色の殻をもつが、二枚貝ではなく腕足動物
・古代から形が変わらない「生き化石」
・有明海では食用



コアマモ

(福岡県:情報不足)
・多年生の海草類
・内湾や河口域の浅い砂泥底に生え、アマモ場を形成



ズグロカモメ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・夏羽は頭が真っ黒になるので「ズグロカモメ」
・毎年200〜300羽が曾根干潟で越冬
・ギラヴァンツ北九州の Mascot キャラクター「ギラン」のモデル



ダイシャクシギ

(福岡県:絶滅危惧II類)
・細長いクチバシを持つ大型のシギ
・曾根干潟で越冬する代表的な冬鳥



ハマボウ

(福岡県:絶滅危惧II類)
・市内では若松や周防灘の河口、海岸にみられる
・玄海国立公園の指定植物



イチイガシ

・常緑高木、独特の形と風格があり姿が美しい
・北九州市のシンボルツリー



カワセミ

・水辺に生息する青が鮮やかな小鳥
・素早いダイブで魚を捕らえる
・1960〜1970年代の市内では幻の鳥といわれるほど減少
・現在では数は多くないが市内の水辺各所でみられる



ルリモンハナバチ

・体色は黒で青緑色の斑紋が美しい「幸せを呼ぶ青い蜂」と言われている
・市内では、山田緑地、県立中央公園等でみられる



チュウヒ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・広いヨシ原に生息するタカ
・国内での繁殖は局地的だが、北九州では若松等で確認
・国産車の「ハリヤー」は英語で「チュウヒのなかま」



カヤネズミ

(福岡県:絶滅危惧II類)
・日本最小のネズミ
・ススキ等イネ科植物が繁茂した草に生息
・葉で丸く覆んだ巣(球巣)を作る



ガシャモク

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:準絶滅危惧)
・「蔭」ではなく沈水性の多年草
・市内の白生地は北九州市、つがる市、鳥取市の3か所のみ



オシドリ

(環境省:情報不足、福岡県:準絶滅危惧)
・カモのなかま、雄の冬羽は鮮やかな橙赤色
・市内では小倉南区の道原貯水池、昭和池等でみられる



アサギマダラ

・長距離移動する「渡り蝶」
・市内では、白野江植物公園、山田緑地、若松北海岸等に飛来



トノサマガエル

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:絶滅危惧II類)
・代表的な水田のカエル
・近年、平地ではほとんどみられなくなった



トバタアヤメ

(福岡県:野生絶滅)
・アヤメの変種で小型
・和名にも学名にも「トバタ」がつく
・野生絶滅、戸畑区内の公園等で大切に育てられている

ベッコウトンボ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・響灘ビオトープのシンボル種、成虫は4〜5月にみられる
・ヨシ、ガマ等が茂る池沼に生息するが国内の生息地は数か所に限定
・種の保存法により採集が禁じられている



カスミサンショウウオ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・九州の里山を代表する止水性の小型サンショウウオ
・第二種国内希少野生動物種



ハチクマ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧)
・「ハチ」を主食とするタカ
・夏鳥で、北九州は春・秋の渡りルート上にある

カブトガニ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・太古の昔から姿がほとんど変わらない「生き化石」
・曾根干潟は国内有数のカブトガニ産卵地



コガタノゲンゴロウ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・「コガタノ」とあるが、県内最大のゲンゴロウ
・響灘ビオトープ等、水生植物の多い水域等に生息



カゼトゲタナゴ

(環境省:絶滅危惧II類、福岡県:絶滅危惧II類)
・九州北部にのみ分布する小型のタナゴ
・近年、紫川ではみられなくなった

絶滅のおそれのある種のカテゴリ

野生絶滅	飼育・栽培下にあるいは自然分布域の外側で野生化した状態でのみ確認している種
絶滅危惧IA類	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧II類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧III類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧II類	絶滅の危機が拡大している種
準絶滅危惧	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性がある種
情報不足	評価するだけの情報が不足している種

北九州市に生息する多様な生きものたち

Flora and Fauna

スナメリ

(福岡県:準絶滅危惧)
・北九州周辺の海域に生息する小型のハクジラ類
・スナQのモデル

